〈１面より〉

**【決定概要】**

**《地方への重点的支援（交付金における重点配分対象事業の見直し）》**

以下の事業に特化して策定される整備計画について重点配分対象の拡充・見直しを行う。

◇歩行者利便増進道路に指定された道路（見込みを含む）における歩行者の利便増進や地域の賑わい創出に資する事業について重点配分を行う。また、まちなかウォーカブル推進事業と連携して行う事業については特に重点配分を行う。

◇『「道の駅」応援パッケージ』で選定された「道の駅」の機能強化について重点配分を行う。

◇道路脱炭素化推進計画に基づく事業であって、道路脱炭素化推進計画や「道路の整備に関するプログラム」に事業内容が明記されている事業のうち、以下のいずれかに該当する事業について重点配分を行う。

ⅰ）低炭素アスファルトを活用する事業

ⅱ）道路照明のＬＥＤ化を行う事業

◇自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間整備について重点配分を行う。また、自転車道、自転車専用通行帯の整備について特に重点配分を行う。

◇「地域インフラ群再生戦略マネジメント」の実施方針（公表されたものに限る）に基づき広域連携事業又は多分野連携事業にて行う老朽化対策（舗装・附属物等）について重点配分を行う。

その他、道路事業の取組を着実に進めるため、国土交通省の職員が働きがいと働きやすさを両立しながら成長できる職場の実現に向けて、快適な勤務環境の実現を含む「組織変革（ＣＸ：Ｃｏｒｐｏｒａｔｅ Ｔｒａｎｓｆｏｒｍａｔｉｏｎ）」を推進する。

**【主要施策の基本方針】**

世界水準の、賢く安全で持続可能な国土の基盤ネットワークの構築に向け、次の基本方針の下、道路施策に取り組む。

**《基本方針１　防災・減災、国土強靭化　～災害から国民の命とくらしを守る～》**

発災後概ね１日以内に緊急車両の通行を確保し、概ね１週間以内に一般車両の通行を確保することを目標として、災害に強い道路ネットワークの構築に取り組むとともに、避難や救命救急・復旧活動等を支える取組や危機管理対策の強化を推進する。

**《基本方針２　予防保全型メンテナンスへの本格転換～安全・安心な道路を次世代へ～》**

ライフサイクルコストの低減や効率的かつ持続可能な維持管理を実現する予防保全型メンテナンスへ早期に移行するため、定期点検等により確認された修繕が必要な施設の対策を加速するとともに、新技術の積極的な活用等を推進する。

**《基本方針３　人流・物流を支えるネットワーク・拠点の整備　～人・地域をつなぐ～》**

速達性とアクセス性が確保された国土幹線道路ネットワークの構築に向けて、高規格道路等の整備や機能強化に取り組みつつ、交通拠点の整備によるモーダルコネクトの強化や渋滞対策、物流支援等の取組を推進する。

**《基本方針４　２０５０年カーボンニュートラルの実現に向けた道路の脱炭素化の推進　～低炭素で持続可能な道路の実現に向けて～》**

気候変動の世界的危機に対し、道路の脱炭素化を推進するとともに、ネイチャーポジティブ（自然再興）の取組との相乗効果を図る。

**《基本方針５　道路システムのＤＸ　～ｘＲＯＡＤの推進～》**

道路を安全に賢く使い持続可能なものとするため、新技術の導入やデータの利活用等により道路調査・工事・維持管理等や行政手続きの高度化・効率化を図るＤＸの取組「ｘＲＯＡＤ」を加速する。

**《基本方針６　道路空間の安全・安心や賑わいの創出～地域・まちを創る～》**

全ての人が安全・安心で快適に生活できる社会の実現に向けて、交通安全対策やユニバーサルデザインへの対応、無電柱化、自転車通行空間の整備等を進めるとともに、電動キックボード等新たなモビリティや地域の賑わい創出など道路空間への多様なニーズに応える取組を推進する。

## 2050年、WISENET（ワイズネット）の実現

○「2050年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステム（WISENET※）」の実現のための政策展開により、新時代の課題解決と価値創造に貢献します。

※ World-class Infrastructure with 3S(Smart, Safe, Sustainable) Empowered NETwork

重点課題：　国際競争力・ 国土安全保障 ・ 物流危機対応・ 低炭素化

### ■ WISENETの要点

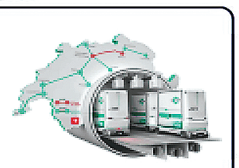
○ **シームレスネットワークの構築**

サービスレベル達成型の道路行政に転換、シームレスなサービスを追求

○ **技術創造による多機能空間への進化**

国土を巡る道路ネットワークをフル活用し、課題解決と価値創造に貢献

▶ 自動物流道路（Autoflow Road（オートフロー・ロード））の構築



スイスで検討中の地下物流システムのイメージ　出典：Cargo Sous Terrain社HP

### 経済成長・物流強化

○ 国際競争力強化のため、三大都市圏環状道路、日本海側と太平洋側を結ぶ横断軸の強化など、強靭な物流ネットワークを構築

○ 物流拠点、貨物鉄道駅・空港・港湾周辺のネットワークの充実や中継輸送拠点の整備等、物流支援の取組を展開

### 地域安全保障のエッセンシャルネットワーク

○ 地方部における生活圏人口の維持や大規模災害リスクへの対応に不可欠な高規格道路を「地域安全保障のエッセンシャルネットワーク」と位置づけ、早期に形成

○ これまでの地域・ブロックの概念を超えた圏域の形成を支援

三陸沿岸道路（岩手県山田町）

### 交通モード間の連携強化

○ カーボンニュートラル、省人化の観点から、海上輸送、鉄道輸送等との連携を強化し、最適なモーダルコンビネーションを実現

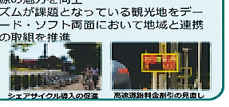
○ バスタの整備・マネジメントを通じて、人中心の空間づくりや多様なモビリティとの連携などMaaSや自動運転にも対応した未来空間を創出

バスタの整備イメージ（国土交通省ホームページ）

### 観光立国の推進

○ ゲートウェイとなる空港・港湾や観光地のアクセスを強化し、観光資源の魅力を向上

○ オーバーツーリズムが課題となっている観光地をデータで分析し、ハード・ソフト両面において地域と連携した渋滞対策の取組を推進



シェアサイクル導入の促進　高速道路料金新化の見直し

### 自動運転社会の実現

○ 高速道路の電脳化を図り、道路と車両が高度に協調することによって、自動運転の早期実現・社会実装を目指す

（2024年度新東名高速道路、2025年度以降東北自動車道等で取組開始、将来的に全国へ展開）

車両と道路が協調した自動運転

### 低炭素で持続可能な道路の実現

○ 道路ネットワーク整備や渋滞対策等により、旅行速度を向上させ、道路交通を適正化

○ 公共交通や自転車の利用促進、物流効率化等により低炭素な人流・物流へ転換

○ 道路空間における発電・送電・給電等の取組を拡大し、次世代自動車の普及と走行環境の向上に貢献

○ 道路インフラの長寿命化等、道路のライフサイクル全体で排出される$CO_2$の削減を推進

## 第１次国土強靭化実施中期計画　（道路関係）

○ 気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害、切迫する大規模地震や急速に進む施設の老朽化等に対応するべく、災害に強い国土幹線道路ネットワーク等を構築するため、高規格道路ネットワークの対災害性強化や老朽化対策等の抜本的な対策を含めて、防災・減災、国土強靭化の取組の更なる加速化・深化を図ります。

### 道路ネットワークの機能強化対策

高規格道路の未整備区間の解消及び暫定２車線区間の４車線化、高規格道路と代替機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を推進

＜達成目標例＞
高規格道路の未整備区間約6,000km（令和2年度末時点）整備完了率
6%【R5】→19%【R12】

【道路ネットワーク強化事例】

新宮紀宝道路【令和6年度開通】

【4車線による効果事例】

被害のない2車線を活用し、交通機能を確保

### 道路施設の老朽化対策

持続可能な維持管理を実現する予防保全による道路メンテナンスへ早期に移行するため、修繕が必要な道路施設の対策を集中的に実施

＜達成目標例＞
要対策橋梁（国及び地方管理）約92,000橋（令和5年度末時点）修繕完了率
55%【R5】→80%【R12】

【橋梁の老朽化事例】

床版鉄筋の露出

【舗装の老朽化事例】

アスファルト路盤の損傷

### 渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流出防止対策

通行止めが長期化する渡河部の橋梁流失や河川隣接区間の道路流失等の災害リスクに対し、洗掘・流失対策等を推進

【橋梁流失防止対策事例】

橋梁架け替えの対策事例

### 電柱倒壊リスクがある市街地等の緊急輸送道路の無電柱化対策

電柱倒壊による道路閉塞を未然に防ぐため、市街地等の緊急輸送道路において無電柱化を実施

【台風等による電柱倒壊状況】

千葉県館山市

### 道路の法面・盛土の土砂災害防止対策

災害直後からの応急活動を支援するために、緊急輸送道路の法面・盛土の土砂災害防止対策を推進

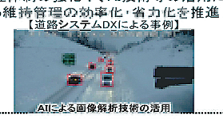
【法面・盛土対策事例】

崩土対策の例（ふとんかご）

### 道路システムのDXによる道路管理及び情報取集等の体制強化対策

遠隔からの道路状況の確認等、道路管理体制の強化や、AI技術等の活用による維持管理の効率化・省力化を推進

【道路システムDXによる事例】



AIによる画像解析技術の活用

＋（以下３施策は、実施中期計画より新たに追加）

### 道路の雪寒対策等

積雪により交通障害が発生する危険性が高い箇所において、大雪時の道路交通確保体制強化（消融雪施設や除雪機械整備等）、雪崩対策や地吹雪対策などを推進

【雪寒対策の事例】

雪崩対策の例（雪崩防止柵）

### 道路（道の駅）における防災拠点機能強化

「道の駅」等の防災機能強化を図るとともに災害時にも活用可能なAIカメラや高付加価値コンテナ等の設置等、災害対応の体制構築を推進

【防災拠点対策の事例】

高付加価値コンテナの設置

### 道路橋梁等の耐震機能強化

切迫する大規模地震に備えるため、緊急輸送道路上の橋梁について、耐震補強等を推進

【橋梁の耐震化対策事例】

耐震補強例（張石高架橋）

### 道路事業における社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金の重点配分の概要

※下線部はＲ８拡充・見直し内容

○社会資本整備総合交付金においては、民間投資・需要を喚起する道路整備により、ストック効果を高め、活力ある地域の形成を支援するとの考えの下、広域的な道路計画や災害リスク等を勘案し、以下の事業に特化して策定される整備計画に対して重点配分を行う。

○防災・安全交付金においては、国民の命と暮らしを守るインフラ再構築、生活空間の安全確保を図るとの考えの下、以下の事業にそれぞれ特化して策定される整備計画に対して重点配分を行う。

#### 社会資本整備総合交付金

**≪ストック効果を高めるアクセス道路の整備≫**

○駅の整備や工業団地の造成など民間投資と供用時期を連携し、人流・物流の効率化や成長基盤の強化に資するアクセス道路整備事業

**≪歩行者の利便増進や地域の賑わい創出に資する道路事業≫**

○歩行者利便増進道路に指定された道路（見込みを含む）における歩行者の利便増進や地域の賑わい創出に資する道路事業

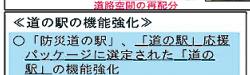
⇒まちなかウォーカブル推進事業と連携して行う事業に対して特に重点的に配分

**≪道の駅の機能強化≫**

○「防災道の駅」、「道の駅」応援パッケージに選定された「道の駅」の機能強化

○子育て応援等の「道の駅」の機能強化（衛生環境の改善等を含む）

○道の駅の防災設備等の機能強化




**≪公共交通の走行環境整備≫**

○交通やまちづくりに関する計画に位置付けられた公共交通の走行環境整備（自動運転を含む）

**≪道路脱炭素化推進計画に基づく事業≫**

○低炭素アスファルトを活用する事業

○道路照明のLED化を行う事業

低炭素アスファルトの活用　道路照明のLED化

#### 防災・安全交付金

**≪子供の移動経路等の生活空間における交通安全対策≫**

○通学路交通安全プログラムに基づく交通安全対策

⇒ビッグデータを活用した生活道路対策に対して特に重点的に配分

○未就学児が日常的に集団で移動する経路における交通安全対策

○鉄道との結節点における歩行空間のユニバーサルデザイン化

○自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間整備

⇒自転車道、自転車専用通行帯の整備およびナショナルサイクルルートにおける自転車通行空間整備に対して特に重点的に配分

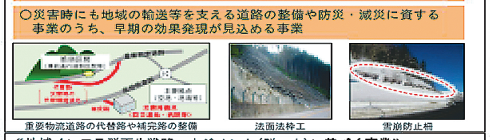
歩道拡幅

自転車通行空間の整備

**≪国土強靭化地域計画に基づく事業≫**

○重要物流道路の脆弱区間の代替路や災害時拠点（備蓄基地・総合病院等）への補完路として、国土交通大臣が指定した道路の整備事業

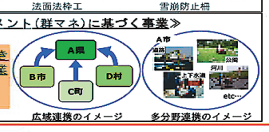
○災害時にも地域の輸送等を支える道路の整備や防災・減災に資する事業のうち、早期の効果発現が見込める事業



重要物流道路の代替路や補完路の整備　法面法枠工　雪崩防止柵

**≪地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）に基づく事業≫**

○群マネの実施方針（公表）に基づき広域連携事業又は多分野連携事業にて行う老朽化対策（舗装・附属物等）




広域連携のイメージ　多分野連携のイメージ

## 地方公共団体の道路除雪費の更なる追加支援に向けて聞き取りを開始

この冬は、１月下旬からの大雪などにより、平年を大幅に上回る大雪となっている。

国土交通省では、地方公共団体に対して、除雪機械の貸出しやスクラム除雪の実施など、現場レベルでの支援を強化してきた。

地方公共団体の道路除雪費は、すでに現時点で、年度当初に配分した道路除雪費を上回る執行状況となっており、財政的な追加支援の必要性が生じている。

このため、２月27日から、地方公共団体に対し、道路除雪費の更なる追加支援に向けて、年度末までの道路除雪費の執行見込みなどの聞き取りを開始している。

## 東北自動車道　佐野ＳＡ（上り線）リニューアルオープン

ＮＥＸＣＯ東日本および株式会社ネクスコ東日本エリアトラクトは、令和８年３月17日（火）午前10時に、東北自動車道　佐野ＳＡ（上り線）を、「ドラマチックエリア佐野（上り線）」としてリニューアルオープンする。今回の上り線のリニューアルオープンにより、「上下線を行き来しながら、思い思いの時間を楽しめる『佐野パークＳＡ』」が完成する。

**《リニューアルのポイント》**

○自然豊かなロケーションと、上下線を徒歩で行き来できる環境を活かし、サービスエリア全体をひとつの〝Ｐａｒｋ〟と見立てリニューアルする。訪れる方々が思い思いの時間を楽しめる場を提供する。

○商業施設では、ＳＡにいながら地域のモノ、ヒト、文化を体験できる場を目指し、「きっと出会える 感動市庭（いちば）」をテーマに、地域を感じられる様々な価値を加えて地域の食や特産品を提供する。

○隈研吾建築都市設計事務所が商業施設の内外装のデザインを監修した。高台に立つ建物は、屋内外の一体感と、外に向かって軒を大きく開くことで、利用者を迎える開放的な空間を演出している。

**《バリアフリー・利便性向上の取り組み》**

快適に利用できるように、駐車場と歩道部との間の段差の解消、大型車の障がい者等用駐車場の整備、サブトイレにも多機能トイレを整備している。

なお、駐車場のバリアフリー化、トイレ、ＥＶ急速充電器については、商業施設リニューアル前に一部先行オープンしている。

**《利用上の注意点》**

○スマートＩＣ（出入口）の利用者

スマートＩＣ（出口）利用者は、商業施設等を利用可能。スマートＩＣ（入口）利用者は、ガスステーションのみ利用可能。（商業施設等は利用できない）

○リニューアルオープン後の工事について

リニューアルオープン後も引き続き駐車場部・歩道部等において工事を行っている。

**《オープニングイベント、オープニングキャンペーン》**

○３月17日（火）午前10時のリニューアルオープンを記念し、入店先着１００名に、佐野市の伝統工芸品「天明鋳物」製の「さのまるベーゴマ」をプレゼントする。

○オープニングイベントでは、佐野ブランドキャラクター「さのまる」とＮＥＸＣＯ東日本マナーアップキャラクター「マナーティ」登場。大じゃんけん大会やグリーティングを実施する。また、和太鼓演奏や佐野市産「寿宝卵」がもらえるゴルフボールつかみ取り大会などのイベントも用意している。

○３月17日（火）から３月31日（火）まで、レストラン・フードコート・ショッピング・テイクアウト各コーナーにてお得なサービスを実施する。

佐野パークＳＡ　全体イメージ